

DLC摩擦摩耗試験ISO化

ダイヤモンド・ブライク・カーボン(DLC)の摩擦摩耗試験について国際標準化機構(ISO)規格化にめぐった。DLCに関するISO規格は世界初。DLC膜は高硬度、高耐摩耗性や低摩擦係数などの特徴から、新材料として適用拡大が予想され、日本発の提案が採用される意義は大きい。規格化を推進してきたニニータイマエンドフォーラム(NDF)でDLC規格化委員会の委員長を務めるナノテック(千葉県柏市)の中森秀樹社長に、規格化の経緯や今後の展望を聞いた。

—DLC摩擦摩耗試験、O事務局に規格化を提議のISO規格化が確定し、関係各国と内容実な見通しです。を調整してきた。特に「2012年にISO、欧州は規格化の意識が

高く、イニシアチブをこぎつけた。今後、各とらあう中で交渉と、国の投票、最終承認となったが、15年6月に、経て、16年1月にはISO規格の照会段階(DIS)の承認まで、れる見込みだ。引き続き

のようなメリットがある。製造、販売を行う。認りますか。
—日本の規格が世界標準となり、DLC市場の規格の試験ができる。他国に先行する優位性を持つ。また、DLC膜の受託分析や評価事業の需要も出てくるだろう」

他国に先行、品質保証で優位



き、提案しになる。自動車産業をているDLC中心に、航空宇宙や医療といった安全性が高評価法となく求められる分野でのる光学測定市場拡大が見込める」規格化を進める「DLC関連企業は規格化を推進し、世界に通用する規格で製品を作れること」から、国際市場への進出が容易になる。例えば、日本のばね社の場合、規格に準じたプロトコルをも

ナノテック社長

中森 秀樹氏

※ 物理学科 24 回生の中森秀樹氏

DLC コーティングを基軸に様々な事業を展開するナノテック株式会社の代表取締役役務として活躍されていますが、平成 26 年 6 月より日本大学理工学部校友会の副会長も務められています。

同氏はまた、DLC 摩擦摩耗試験の ISO 化で日本案の採用に向けて力を尽くされましたが、本年 8 月 20 日の日刊工業新聞にそれに関するインタビュー記事が掲載されています(右図は一部)。

今後とも、同氏が理工学部校友会・校友会物理部会を牽引する役割を果し、社会において活躍する同窓の一人としてますますの重きをなすことを、大いに期待いたします。